



ごりようかく

文責:長澤永子(教頭)

◆二学期がスタート◆～2学期始業式の校長先生のお話を紹介します～

がっ き し ぎょうしき
2学期 始業式



ねが
お願い!
しんがた
新型コロナウイルス
はや しゅうそく
早く終息してください。
(収束)

今皆さんの顔を見てるとよい2学期がスタートできたように思います。新型コロナウイルスがまだまだ流行っていますね。新型コロナウイルス早く終息して欲しいですね。「しゅうそく」という字が実は二つあるのです。一つは「終息」もう一つが「収束」ですね。本来は今の状況だと「収束」この字を使うのです。字には意味があって、「収束」は落ち着いた状況を使うのです。だ

から新型コロナウイルスがだんだん落ち着いてくるときにこの「収束」を使うのです。校長先生がわざわざ「終わる」という字を使って「終息」と書いたのはなぜかというところらの【終息】は「なくなる」という意味です。この世の中から新型コロナウイルスが早くなってほしいなという意味でこの字を使ってあります。

さて、1学期の終業式にこんなお話をしました。「2学期はまずは明るい顔の人を増やそうよ。それにはイライラしないことだよ。だから2学期がはじまる夏休み中うーんとエネルギーためてきてね」とこんなお話をしました。今日はそれに関連したお話をします。

校長先生は今『足底装具』というのを付けて歩く練習をしています。なんとなく前よりはスムーズに歩けるように見えるでしょう。だけど、実はねこんなことがあります。校長先生、歩き方を体が忘れていました。だから、ちょっと早く歩くと、なんかおかしい。足の出し方を忘れていました。それから、歩幅の取り方を忘れていました。だから、階段を降りるとき考えてしまいます。右の足から降りたほうがスムーズなのか、左の足なのか、どちらかなのか困っています。おかしいでしょう。体が忘れてるんだよ。みんな歩くとき、右の足を出すのか左の足を出すのか考えて出している人?いないよね。実は歩くことを意識していません。だけど校長先生はそこまで考えていないと歩けないのです。それからね、悪い癖がついてしまいました。松葉杖をついていたので、左に体重をかけていたので体の真ん中の線がやや左に傾いてしまいます、そこでね、どうやってバランスをとったらよいのだろう。バランスの取り方を考えながら歩いています。

そく てい そう ぐ ある れんしゅう はじ
足底装具をつけて歩く練習を始めましたが・・・



- ①歩き方を体が忘れている
あし だ からだ わす
・足の出し方
あし だ からだ
・歩幅の取り方
あし だ からだ
②悪い癖がついている
わるい くせ
・バランスの取り方

そく てい そう ぐ ある れんしゅう はじ
足底装具をつけて歩く練習からわかったこと



- ①よい癖・悪い癖は、知らないうち
自然に出てしまっている。
②よい癖は、意識して継続しないと
忘れてしまう。

癖 = 心と同じと考ええると怖いと思っ

歩く練習からわかったことがあります。1つめは良い癖、悪い癖知らないうちに出てしまいます。そして、よい癖の方は意識していないと忘れてしまいます。悪い癖はいつまでの残ります。校長先生は歩くときに左へ傾いてしまう悪い癖がいつまでも残ってしまっているのどうまく歩けません。そこで、癖というのを心として考えると怖いと思います。

(よい心・悪い心)なぜかという、悪い癖とか悪い心というのはいつまでも残ってしまいます。そして、良い癖、良い心は意識して継続して今ないと忘れてしまうのです。

さて、それに関係したお話をしたいと思います。『赤い鞠 白い鞠』というお話です。実際に江戸時代にいたお医者さんで儒学者です。儒学という学問の先生です。滝鶴台(たきかくだい)という人です。とっても有名な人です。その人の話ではなくその人の奥さんの話です。さあ、どんなお話か今から読みます。

江戸時代
医師・儒学者：滝鶴台
1709~1773
奥さんのお話



ある日のこと、妻の着物のたもとから、ふとした拍子に赤い糸を巻いた毬がこぼれ落ちました。それを見た鶴台は、きつとこう思ったのではないでしようか。
「こんな子供のおもちやのようなものを、なぜ妻は大事に持ち歩いてるのだろうか」
鶴台が「それは何か」と尋ねると、妻は顔を赤くして、こう言いました。
「私は日々、過ちを犯して後悔することが多いのです。そういうことを少なくしたいと思って赤い毬と白い毬をつくり、たもとに入れておくことにしました。
悪い心が起ったときは、この毬に赤い糸を巻き添えます。よい心が起ったときは、もう一つの毬に白い糸を巻きます。初めは赤い毬ばかりが大きくなりましたが、これではいけないと思って気がつけていくと、やっとなつの毬が同じくらい大きくなりました。けれど、まだ白い毬が赤い毬より大きくならないことを恥ずかしく思っているのです」
そう言うと、妻はたもとから白い毬を出し、鶴台に見せたということです。

奥さんは悪い心とかよい心とっていました。これはね、どういうことかという、よい心というのはプラスの心です。鶴台の奥さんはありがたいと思う気持ちお友達がちょっとなんかやってくれたとき「ありがとう」と「ありがたいな」と思う気持ち思いやりの心を持っているのだそうです。そして、悪い心というのはマイナスの感情だそうです。どういうことかという、イライラ、イライラして「どうせ、今日もうまくいかなかったな」という、不満ばかり、怒っている、それから羨ましいな、そういう気持ちをマイナスの感情。それを悪い心とっていて、そういう気持ちになったときは、赤い糸を鞠にまいて、プラスの心の時は白い糸を鞠に巻いたそうです。

さて、2学期。全校の皆さんが明るい顔をした人がいっぱいいるそういう風になってほしいなと思います。なぜかという、私たちは、プラスの心とマイナスの心を持っていて、けれど、なんとか心をプラスに向けるように頑張っているけれど校長先生は難しいなと思う時もあります。だから毎日毎日小さな言葉や出来事に「ありがとう」って1日に1回いうように決めています。または「ごくろうさん」って1日1回言えるようにしたいと思っています。今日も朝、言うことができました。6年生のNさんに言えました。お掃除に来てくれました。お掃除を頑張ってくれたので「ありがとう」って言えました。そこで、みんなも明るい挨拶をするとか、温かい言葉をかけるとか、気持ちよく掃除をするとか、進んで履き物をそろえるとか、優しい気持ちで人に接するとか、その気になれば、いつでもどこでもできることだよ。自分にできる小さな事、今すぐできる事を続けていかない、悪い心だけが残ってしまいますね。そうならないように、明るい温かい気持ちを周りの人に伝えてほしいなと思います。そうすると、そんな人がどんどん増えていくと、やがては学級が、やがては学年が、やがては学校が、やがては日本が、最後には世界がとってもよい世の中になっていくと思います。頑張るってほしいなと思います。そこで、今日1日の中で誰かに1回でもよいので「ありがとう」と言えるかな?そんなことを考えながら生活してほしいと思います。みんなの心の白い鞠を大きく大きくしてほしいなと思っています。

あか かお ひと ふ
2学期 明るい顔の人を増やそう!

イライラしないで
あか かお
・明るい顔をする
ことば つか
・言葉遣いをよくする
さんし
・キックやパンチは禁止

あか まり しろ まり
『赤い毬・白い毬』より
しろ まり おお そだ
よい心(白い毬)を大きく育てましょう。